

学期	月	単元・章	時数	観点別評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	4	ガイダンス A 題材 家族・家庭生活 1章 今の自分とこれから ・これまでとこれからの自分	2	○家族家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。 ・家族での具体的な活動を振り返り、家族・家庭の基本的な機能について理解している。	○これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・これからの生活において自分のできる役割や行動について考えられている。	○これまでの生活を振り返り、自分の成長や家族や地域の人々と関わりを通して自己理解を深めるとともに、これからの自分の生き方や生活について展望している。
	5	2章 家族のはたらきと家庭の仕事 ・家庭の仕事と機能の安定 3章 様々な家族・家庭 ・多様化する家庭 6章 かかわり合う地域と家庭 ・家族を支える社会	3	・家族にはそれぞれの立場や役割があり、協力し合うことでより良い家族関係が築かれることを理解している。 ・家庭生活は地域との相互のかかわりの中で成り立っていることを理解している。	・家族の在り方が多様化している現状を踏まえ、これからの自分と家族の関わりや、自分らしい生き方・暮らし方について考える。	○家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・誰もが尊重される家族・地域社会の実現に向けて、生活の中から課題を見出し、主体的に解決しようと工夫し、社会の一員として実践しようとしている。
	6	7章 持続可能な家庭生活 ・誰もが尊重される社会 B 題材 衣食住の生活 (衣生活) 2章 衣服の選択と着方 ・T.P.O.に合わせた服装 ・自分らしい着方	4	○衣服と社会生活との関わりや社会生活上の働きが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。 ・取り扱い表示の意味を理解し、衣服の素材に適した手入れの方法、衣服の素材に合った洗剤の種類や量を適切に選択できる。 ○衣服の計画的な活用必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。	○衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・衣生活を振り返り、中学生の時、場所、場合に合った適切な衣服について考え、工夫している。 ・汚れに応じたシミ取りについて、課題解決に向けて一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	○よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択と手入れについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・汚れに応じたシミ取りについて、課題解決に向けて一連の活動を振り返って改善しようとしている。
	7	1章 衣服のはたらきと手入れ ・衣服の素材と性能 ・取り扱い表示 ・汚れのシミ取り実験	3	・界面活性剤の仕組みについて理解している。 ・汚れに応じたシミ取りの仕方を理解しているとともに、適切にできる。		
	9	2章 布を用いた作品で生活を演出 ・制作の基礎、基本 ・刺繍コースターの作成	4	○製作する物に適した材料や縫い方について理解しているとともに、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。 ・目的に応じた縫い方やアイロンの安全な取り扱いについて理解している。	○資源や環境に配慮し、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・自らの製作活動を振り返り、問題を見だし、課題を設定している。	○よりよい生活の実現に向けて、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	10	4章 持続可能な衣生活 ・環境に配慮した衣生活	3		・より上手に効率よく作業するために考え、工夫している。	・自らの製作活動について、課題解決に向けて一連の活動を振り返って改善しようとしている。
2	11		4		・資源や環境に配慮した衣生活を送るために生活を振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	
	12	B 題材 衣食住の生活 (食生活) 1章 人間にとっての食事 ・食事の役割と食習慣 2章 食品と栄養素 ・五大栄養素 ・バランスの良い食事	3	○生活の中で食事が果たす役割について理解している。 ・食事の役割や食習慣の健康への影響を理解している。 ○栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的な特性について理解している。	○自分の食習慣について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ○中学生の1日分の献立について問題を見いだして課題を設定し、解決策を	○よりよい生活の実現に向けて、食事の役割と中学生に必要な栄養の特徴について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・自分の食生活を振り返り、生活をより

3	1	3章 中学生に必要な食事 ・中学生の発達と必要な栄養素 5章 献立作り ・中学生の1日に必要な栄養、季節感を意識してテーマをもって献立をつくる	3	る。 ○中学生の1日に必要な食品の種類と概量が分かり、1日分の献立作成の方法について理解している。 ・日常的に摂取している料理に使用されている食品に含まれる栄養素と働きを理解している。	構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・食品を組み合わせ、栄養バランスの取れた1日分の献立を見直し問題を見だし、課題を設定している。	よくするための課題について、解決に主体的に取り組もうとしている。 ○よりよい生活の実現に向けて、中学生に必要な栄養を満たす食事について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・中学生の1日に必要な栄養素を意識した献立づくりについて、工夫し創造し、実践しようとしている。
	2	6章 持続可能な食生活 ・食品ロスとSDGs ・食料自給率	4	・食品群に分類、計算し、中学生の1日に必要な栄養について理解していると同時に、適切に献立作りができる。 ・生鮮食品の特徴と、選び方について理解している。	・作成した献立についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。 ・食品の選択について、新鮮で安全な食品を見極めるために、他の人と意見交換をしながら考え、工夫している。	
	3		3	・加工食品の特徴と、表示について理解している。	・持続可能な社会に向けて、我が国のフードロスについて問題を見いだして課題を設定している。	
評定 [300%(3観点の合計)÷3=100%]			知 (100%)	思 (100%)	主 (100%)	
評価方法			テスト (60 %程度) 授業内の活動 (40 %程度) ・ワークシート ・作品、課題	テスト (40 %程度) 授業内の活動 (60 %程度) ・ワークシート ・作品、課題、自己評価カード	授業内の活動 (100 %) ・ワークシート ・課題、課題解決のための計画 ・授業内テスト ・ポートフォリオ	

令和8年度 町田市立鶴川中学校

年間指導計画及び観点別評価規準

第2年 教科：家庭 教科書：開隆堂 週時数：1 担当者：小林実央

学期	月	単元・章	時数	観点別評価規準			
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	4	ガイダンス B 題材 衣食住の生活（食生活） 1章 人間にとっての食事 ・食事の役割と食習慣	2	○中学生の1日に必要な食品の種類と概量が分かり、1日分の献立作成の方法について理解している。 ・料理に使用されている食品を食品群に分類・計算をし、中学生の1日に必要な栄養について理解しているとともに、適切に献立作りができる。	○中学生の1日分の献立について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○よりよい生活の実現に向けて、食事の役割と中学生の栄養の特徴について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	
	5	2章 食品と栄養素 ・五大栄養素とそのはたらき ・バランスのよい食事 1章 中学生に必要な食事 ・中学生の発達と必要な栄養素	3	・鮮食食品の特徴と、選び方について理解している。 ・加工食品の特徴と、表示について理解している。	・作成した献立を見直し問題を見だし、課題を設定している。 ・作成した献立についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	・自分の食生活を振り返り、生活をよりよくするための課題について、解決に主体的に取り組もうとしている。 ○よりよい生活の実現に向けて、中学生に必要な栄養を満たす食事について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	
	6	5章 献立作り ・中学生の1日に必要な栄養、季節感を意識しテーマをもって献立をつくる 4章 日常食の調理と地域の食文化 ・生鮮食品の選択と保存 ・加工食品の選択と保存	4		・食品の選択について、新鮮で安全な食品を見極めるために、他の人と意見交換をしながら考え、工夫している。 ・健康・安全などの視点から調理の仕方と調理計画を考え、工夫している。	・持続可能な社会に向けて、我が国のフードロスについて問題を見いだして課題を設定している。	・中学生の1日に必要な栄養素を意識した献立づくりについて、工夫し創造し、実践しようとしている。
	7	・食品衛生 ・調理実習事前学習 ・調理実習	3				
	9	6章 持続可能な食生活 ・食品ロスとSDGs ・食料自給率	4				
	10	A 題材 家族・家庭生活 3章 幼児の生活と家庭 ・今の自分とこれまで ・幼児の心身の発達 ・幼児の生活 ・発達にとっての大人の役割 ・子どもの成長と地域の関係 ・幼児の世界を体験しよう ・調理実習事前学習 ・調理実習	3	○幼児の発達と生活の仕方が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割について理解している。 ・幼児のからだの発達の規則を理解し、知識を身に付けている。	○幼児とのかかわり方について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。	○家族や地域の人々と共同し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	
	11		4	・幼児の心の発達を理解し、知識を身に付けている。	・身長や体重の増加、体の発達を支えるための援助を考え、知識を活用して幼児や小さな子どもをもつ家族とのよりよいかかわり方を、意見交換しながら思考し、表現している。	・幼児の体と心の発達を理解し、子どもの目線で物事を見ようとしている。	
12	3		・幼児にとってのあそびの意義や幼児との関わり方について理解している。	・第一反抗期の幼児への援助を考え、知識を活用して幼児や小さな子どもをもつ家族とのよりよいかかわり方を、他と意見交換をしながら思考し表現している。 ・子どもをもつ家族を支える施設や制度についての知識を活用し、仕事時間や生活時間の観点から、子育て世代がよりよく生活できるための対策や、新しい制度を、意見交換しながら思考し、表現している。	・幼児食について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。		
3	1	6章 かかわり合う地域と家庭 ・高齢者	3	・同じ地域で生活している高齢者の心身の特徴や高齢化社会について理解し、知識を身に付けている。	・子どもをもつ家族を支える施設や制度についての知識を活用し、仕事時間や生活時間の観点から、子育て世代がよりよく生活できるための対策や、新しい制度を、意見交換しながら思考し、表現している。 ・高齢者への関わり方や誰もが暮らしやすい地域社会について思考し表現している。	・地域の一員として、幼児や小さな子どもをもつ家族とかかわったり、支えたり、地域の人々とよりよい生活を送ろうとしている。	
	2	B 題材 衣食住の生活（住生活） 1章 人間にとっての住まい ・住まいのはたらき 2章 生活に必要な住空間 ・住まいの空間と家族とのかかわり	4	・生活行為と住空間の関係を理解させ、家族の生活によって住み方が異なることを理解する。 ・健康で心地よく住むための快適な条件を理解している。 ・場所や場面に応じた安全対策ができる基礎的な知識を身につけている。	・家族が集まる場所がより快適になるように工夫ができる。	・住まいの役割や基本的な機能について関心を深めようとしている。 ・家族の生活と住み方とのかかわりを考えようとしている。	
	3		3		・健康で心地よく住むための室内環境の条件を知り、関心をもつことができる。		

評定 [300%(3 観点の合計) ÷ 3 = 100%]	知 (100%)	思 (100%)	主 (100%)
評価方法	テスト (60 %程度) 授業内の活動 (40 %程度) ・ワークシート ・作品、課題	テスト (40 %程度) 授業内の活動 (60 %程度) ・ワークシート ・作品レポート、課題、自己評価カード	授業内の活動 (100 %) ・ワークシート ・課題、課題解決のための計画 ・作品レポート ・授業内テスト ・ポートフォリオ

令和8年度 町田市立鶴川中学校

年間指導計画及び観点別評価規準

第 3 年 教科： 家庭 教科書： 開隆堂 週時数： 0.5 担当者： 小林実央

学期	月	単元・章	時数	観点別評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	4	ガイダンス C 題材 消費生活・環境 1章 家庭生活と消費 ・消費生活のしくみ	2	○購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解している。 ・物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理について理解しているとともに、収集・整理が適切にできる。	○物資・サービスの購入について問題を見出して課題を解決し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	5	2章 購入・支払いと生活情報 ・様々な購入・支払い方法 ・商品情報の適切な活用	2	○売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解しているとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。	・クレジットカードを活用する際の問題を見出して、計画的に金銭の管理をする方法を考え、考察したことを論理的に表現している。	○よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	6	3章 消費者被害と消費者の自立 ・売買契約 ・中学生の消費者被害	2	○消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。	○自立した消費者としての消費行動について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○よりよい生活の実現に向けて、自分や家族の消費生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域などで実践しようとしている。
	7	・消費者を支える法律や制度 ・消費者の権利と責任	2	・売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解しているとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。 ・悪質商法の特徴を理解している。 ・消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。 ・消費者を支える制度や法律を適切に理解している。 ・自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。	・中学生の消費者被害について問題を見出して課題を設定している。 ○自分や家族の消費生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
2	9	4章 持続可能な社会に向けて ・消費行動が環境問題に与える影響	2	○家庭の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解している。 ・生活行為と住空間の関係を理解させ、家族の生活によって住み方が異なることを理解する。	○家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	10	B 題材 衣食住の生活（住生活） 3章 人間にとっての住まい ・住まいのはたらき 2章 生活に必要な住空間 ・住まいの空間と家族との関り	2	・健康で心地よく住むための快適な条件を理解している。 ・家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。	・家族の安全と減災を考えた住空間の整え方について工夫している。 ・災害時という条件に応じて非常食の食品や調理方法を考え、表現できる。	・住まいの役割や基本的な機能について関心を深めようとしている。 ・家族の生活と住み方とのかかわりを考えようとしている。
	11	4章 安全で健康的な住生活 ・家庭内事故への備え ・災害への備え	2	・自然災害に備えた安全を考えた住空間の整え方について理解している。 ・再生可能エネルギーや安全な住まい（パイアフリーなど）について理解している。	・自分の生活課題を見つけ、環境・安全・快適性の視点から具体的な改善策を考え、理由とともに表現できる。	・災害時の非常食について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	12	・調理実習事前学習 ・調理実習	2			・自分の生活を振り返り、持続可能な社会に向けて改善しようとしている。
3	1	5章 持続可能な住生活 ・再生可能エネルギー ・持続可能な社会	2			
	2	・生活の課題と実践 ・3年間の振り返り人生を見つめる	2	・3年間の家庭科教育を振り返り、適切に意義を理解している。	・自分なりに人生を考え、現在、未来の生活をより豊かにするための課題を設定している。	・自分なりに人生を考え、現在、未来の生活をより豊かにするための課題を設定し、解決しようとしている。
	3		1			
<p>評定 【300%(3観点の合計)÷3=100%】</p>				<p>知 (100%)</p>	<p>思 (100%)</p>	<p>主 (100%)</p>
<p>評価方法</p>				<p>テスト (80%程度) 授業内の活動 (20%程度) ・ワークシート ・作品、課題、レポート</p>	<p>テスト (80%程度) 授業内の活動 (20%程度) ・ワークシート ・作品、課題、レポート</p>	<p>授業内の活動 (100%) ・ワークシート ・課題、課題解決のための計画 ・授業内テスト ・ポートフォリオ</p>